

長谷川 鉄工

代表取締役社長

小野 良二

自社ブランドの冷熱アプリに手応え



当社は「成長」から「進化」へ」を社内標語に掲げ、19年も進化への歩みを止めないよう意識づけてきました。19年9月期決算では、冷凍機事業、冷熱エンジニアリング事業とも目標を達成し、増収・増益での着地を実現しました。

冷凍機事業は国内外とも好調です。工場の製造社員らが業務効率化と働き方改革を両立して生産能力を高めてくれたことが寄与しています。営業社員らの意識改革でも実効を上げ、足元の受注案件に対応しつつ、20年9月期につながる受注残を積み上げてくれました。社員らの進化の過程が見られ、着実に前進していることを実感することができました。

冷熱エンジニアリング事業では、自社ブランドの冷熱アプリケーションの採用が進みました。特にNH₃/CO₂冷熱システム「NicRES（ニクレス）」の導入が加速したと感じます。大手食品・冷蔵倉庫会社様の冷蔵倉庫向けには「ニクレス」のシステム効率を高めながら、ユニットを小型化した改良版を2基納めました。

大型低温物流倉庫会社様向けには、茨城県内の冷蔵庫新築案件で冷熱システムに「ニクレス」を、庫内側には自然対流&ふく射冷却新システム「Yuricargo（ユリカーゴ）」をそれぞれ採用頂き、20年内に完工する予定です。東北地区では冷設工事店様によって「ニクレス」をご販売頂いた事例もあります。庫内側のアプリでは「ユリカーゴ」の冷却効率をさらに高め、F級温度帯でありながら、セミ超低温保管と同等の品質を実現させたシステム

と、荷さばき室に高効率陽圧除湿空調システム「DEMS（ディームス）」を併用する提案を行い、ご採用頂いた事例が複数あります。沖縄県内の低温物流倉庫会社様向けの新築案件では、超低温・三元冷凍システム「CARUS（カールス）」と「ニクレス」を同時に受注し、20年中の完工を見込んでいます。

海外事業の進展も見られました。ベトナム向け専用機として製品化したVFL型冷凍機の刷新モデルが現地で50台超の大口受注に至りました。インドネシアでは、現地ローカル代理店経由で「ニクレス」が大型冷蔵倉庫に採用され、20年春に2基納入します。国内外で製品やアプリがた改良版を2基納めました。大型低温物流倉庫会社様向けには、茨城県内の冷蔵庫新築案件で冷熱システムに「ニクレス」を、庫内側には自然対流&ふく射冷却新システム

「Yuricargo（ユリカーゴ）」をそれぞれ採用頂き、20年内に完工する予定です。東北地区では冷設工事店様によって「ニクレス」をご販売頂いた事例もあります。庫内側のアプリでは「ユリカーゴ」の冷却効率をさらに高め、F級温度帯でありながら実稼働段階へと移り、今後一層ブラッシュアップされるものと期待しています。

新年以降、当社は職務内容や社員が努力して上げた成果に応じて、社の利益を分配できるような人事評価制度を導入する予定です。全社員が職務にやりがいを感じ、モチベーションを高めて職務に集中できる環境を整えていきます。